

ちとせ 地域福祉ネットワーク通信

Together

～一緒に～

平成 29 年 3 月 発行
事務局：千歳市保健福祉部
福祉課総務係
☎ 24-0292
Fax 22-8851

平成 28 年度 平成 29 年 2 月 21 日（火）第 2 回ちとせ地域福祉ネットワーク会議を開催しました！

- テーマ：「こども食堂」
講演：「西野こども食堂 kaokao（かおかお）について」
講師：西野こども食堂 kaokao（かおかお）代表 富塚 とも子氏
グループワーク：「こども食堂を作ろう！」～こどもの居場所づくりから始めるまちづくり～
- 参加者：青少年育成市民会議、民生委員児童委員連絡協議会、社会福祉協議会、地域生活支援センター、教頭会、障がい者総合支援センター chip、更生保護女性会、保護司会、女性団体協議会、北陽高校、もったいないわ 千歳、北海道文教大学、(株)シンクプロジェクト、障がい者自立支援わくわくプロジェクト等、福祉分野の第一線で業務に従事している方や地域に密着した活動を行っている方など、こども食堂に関心のある方合計 32 名が参加されました。

【講演概要】

◆ kaokao（かおかお）とは

タイの言葉で食べ物を意味する。顔と顔の見えるつながりの中で、子どもたちが安心して過ごし、楽しくご飯を食べられる場をめざしている。

◆ 設立の立役者

次の 3 者の巡り合いで誕生した。

- ① 設立を呼びかけた人：こどもの居場所を考える会（富塚代表）
- ② 場所とノウハウの提供者：高齢者向けコミュニティレストランを運営している、NPO 法人ぐるーぽ・びの
- ③ 設立運営の支援者：こども食堂の設立を希望する地域の母親達（積極的に支援するため kaokao サポートーズを結成）

◆ 設立の背景

- ① 地域の状況：古くからの住宅街で、コンビニ、ドラッグストア、小さなスーパーがあるが、子どもが野外で遊ぶ場所が少ない。
- ② 地域の家族の状況：核家族が多く、兄弟姉妹が少ない。両親が働いている家庭が多く、日中に大人がいない。
- ③ 地域の母親の声：子どもが一人で行けて、食事、遊び、宿題をできる場所が欲しい。学校でも家庭でもない、地域の子どもの居場所が欲しい。

◆ 設立時に大切なこと

開設を決めたら、地域への挨拶が重要である。特に校区の小中学校の校長先生の理解を得ること、また、幼稚園、保育園、町内会、子供会等にポスターやチラシを配布して、設立についての理解を深めた。(kaokao サポートーズの支援が大きかった。)

◆ 運営の考え方やルール

- ① 貧困家庭のためではなく、地域の子どもの居場所として運営している。できるだけ優良な食材を使い、自分の子どもに食べさせたいものを提供している。安定した運営を続けるため、食事代をこども 300 円、大人 500 円と設定している。
- ② ルールは 2 つあり、電子ゲームやおやつは持ち込まないこと、また、子どもたちだけで来る場合は、保護者に行先を伝えて、帰りは保護者に迎えに来てもらうことが基本である。



【グループワーク】テーマ「こども食堂を作ろう！」

～こどもの居場所づくりから始めるまちづくり～

討議内容

- ① どんなこども食堂を作りたいか
- ② こども食堂づくりに難しいと感じていること
- ③ こども食堂づくりに提供できる自分のスキル

※各班の特徴的なものを抜粋

班	① どんなこども食堂	② 難しいと感じていること	③ 提供できるスキル
A 班	・食堂だけではなく、勉強したり、遊んだりできる居場所 ・引きこもりの青年、障がいのある子、高齢者との交流、一人で食事しない ・朝ごはんが食べられる、子どもでも手伝いができる	・資金集めと運営費の確保 ・人の確保（賛同者、支援者、利用者） ・保護者の理解 ・場所の確保（調理もでき、人も集まれる）	・自然いっぱいの方所の提供 ・会場づくり ・家庭での悩みなど、子どもだけでなく保護者の相談をサポート ・運転、料理補助、話し相手、おやつ作りなど
B 班	・色々な人が、気軽に立ち寄れて、おいしいものが食べられる ・小遣いが稼げたり、手伝いのできたり、何か自分も役割がある ・大人も暇つぶしできる ・多様な人が集まれる ・頼れる大人がいて、子ども同士の助け合いがある ・甘味どころ	・時間設定が難しい ・場所の確保 ・スタッフや核となる人の確保（資格の有無など） ・地域の人々の理解 ・地域への周知、PR ・資金の確保	・子どもの相手 ・PR活動 ・楽しく歌える。笑える話をたくさんできる ・障がい、福祉関係につながりが強い ・大型の運転免許を所持している
C 班	・地域密着型 ・駄菓子屋がある ・食事ができて、遊び場所（内・外）がある ・学習ルームがある ・じいちゃん、ばあちゃんがいる相談できる場所 ・お菓子作りができる ・一人にならない、親子で参加でき、ほっとできる場所	・自由と規律、安全面等のルールづくり ・継続すること ・資金、人、場所の確保 ・地域の選定と地域住民の理解	・寄付する ・子どもと遊ぶ ・公共施設の申込み ・困っている子を紹介できる ・横のネットワークのコーディネート ・絵、トールペイントを教えられる ・本を読んで聞かせる ・勉強を教えることができる
D 班	・障がいがあるなしに関わらず、誰でも、いつでも来られる場所 ・バリアフリーが身に付く場 ・高齢者と子どもと一緒に過ごせる場 ・色々な体系の色々なこども食堂が色々な所にできると良い	・場所の確保 ・資金の確保 ・人（スタッフ、協力者、行政等の手続きのできる人）の確保 ・アレルギーとの付き合い方	・食材の確保 ・悩み相談・カウンセリング ・畑を貸すことができる ・車の運転 ・体力づくり ・学生団体、子ども会のつながりがある ・楽しい音楽の提供 ・子どもと一緒に遊べる



【まとめ】

グループワークの中で、すぐにこども食堂を設立できそうだという声があったが、やると決めることが大事である。その際に、初めから長く継続しようとするのが難しいので、まず2年間運営することを目標に始めると良いと思う。運営しているうちにノウハウ等が徐々に積み上がるので、継続に繋がる。

力があるのは、食堂を提供する側の大人だけではなく、利用する側の子どもにもある。その力を発揮できて生かして、認められる居場所として「こども食堂」が大切だと思う。

行政も応援したいと思っている今がチャンスであり、ささやかでも良いので、こども食堂を作って行きましょう。



☆今後も、ちとせ地域福祉ネットワーク会議を実施します。

会議でわかりあえる4つのこと！

☆地域の福祉の現状をわかって。 (地域の福祉の状況を共有します)

☆地域で困っている人のこと (福祉ニーズ) をわかって。 (地域にある福祉課題や求められる支援の情報を共有します)

☆地域の誰が何をしているのかをわかって。 (地域に関わる他職種の人が集まるのでお互いの顔、お互いの役割がわかり、より連携がとりやすくなります)

☆地域の住民ができることをわかって。 (福祉ニーズが広がる中で住民ができる助け合いの内容がわかります)

